

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1)「家庭・地域・学校協議会」の構成 (2)協議会の内容

地域コーディネーター（3名）

勝山公民館長、猪野瀬公民館長
経営コンサルタント

勝山・猪野瀬地区区長代表（2名）

校下保育園・幼稚園代表（1名）

主任児童委員（1名）

学識経験者（1名）

P T A 代表（2名）

開催回数 3回

開催日程 ①令和元年 5月24日（金）

②令和元年11月15日（金）

③令和2年 2月21日（金）

協議内容
・スクールプランについて
・学校評価の結果について
・児童の学校生活の様子について

(3)協議会における成果と課題

【成果】

- ・学校経営の方針(スクールプラン)を委員全員で共有することができた。
- ・授業や学習発表会の参観を通して、児童の学校での様子を理解してもらうことができた。
- ・学校評価の結果の分析を通して、学校の取組の成果や課題を共有することができた。

【課題】

- ・会議が日中開催のため、仕事の都合等で出席できない委員が見られた。

2 地域と進める体験活動

(1)活動のねらい

地域素材を生かした体験活動を通じて、ふるさとの良さに気づくことで、地元が好きと感じ、地元を誇りに思う児童を育てる。

(2)活動の実際

○「町探検と栽培活動」（1年生、2年生）

町探検や野菜の栽培活動を通して自分たちの地域のよさを再確認した。また、恐竜博物館で恐竜の話を聞いたり展示物を見学したりすることによって、恐竜化石等がジオパークである勝山の宝であることを再確認した。

○「勝山の宝を見つけよう」（3年生）

勝山の伝統的基幹産業の繊維産業について学ぶため、「ゆめおーれ勝山」の職員に蚕の生態や養蚕繊維産業の歴史について説明を受けた。その後、児童の手で蚕の飼育・観察を行った。また、平泉寺の「まほろば」に行き平泉寺について学習したり大矢谷の巨大岩塊を見学して勝山のジオパークについての理解を深めたりした。自分たちの住む町の歴史、文化についての学習を行った。

○「地域のお年寄りとの交流会」（4年生）

福祉学習の一環として交流会を開催した。

子ども達の元気な歌声に感動して涙を流すお年寄りの姿も見られた。昔遊びの交流で

は、お年寄りの優れた技に驚く児童の姿が見られた。最後にお年寄りから「普段、孫が遠くにいるので涙が出るほど嬉しかった。」という言葉をもらい、児童にとってもお年寄りにとっても有意義な時間となった。



○「勝山再発見（大豆はんぱないって!）」（5年生）

勝山の特徴を探す中で、「とうふやあげ（大豆製品）をよく食べる。」という意見が子どもたちから出た。とうふやあげだけでなく、いろいろな大豆製品について児童の興味に基づいてグループ分けをし、調べ学習をした。大豆製品の消費を問うアンケート（4～6学年児童対象）や児童が調べて分かったことをまとめ、グループごとに壁新聞を作成した。

○「勝山の魅力について調べよう」（6年生）

地元勝山の魅力について調べた。

山の資源、川の資源、勝山の特産物についてグループに分かれて調べ活動に取り組んだ。

調べたことを、わかりやすくまとめて、学習発表会では全校児童、保護者や地域の方々に発信することができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

○地域の敬老会と交流会するにあたり、日時や場所の設定、敬老会とのすりあわせなど、様々な場面で便宜を図ってもらった。

○勝山の魅力について調べるに当たり、情報と資料の提供を受けたり出前授業の講師を派遣してもらったりした。

(4) 特に工夫した事項

○学習発表会で活動したことや地域について調べたことを発表することによって、全校児童や保護者のみならず、地域の方々にも発信することができた。

(5) 成果と課題

【成果】

○事前学習をしっかりと行って活動をしたが、実際にふれあってみて初めてわかることも多く、その人に合わせたふれあい方、サポートの仕方があるということを学習することができた。これまでは違う立場の人のためということを考えてこなかった児童たちにとって、誰かのことを考えて何かをするという経験はとても貴重なもので大きな成長につながった。

○勝山には豊かな自然や豊富な特産物があることを再認識することができた。子ども達は、勝山についての調べ学習を通して、地元勝山の魅力を知り、大いに地元を誇りに思うことができた。

【課題】

○調べ学習や発表で終わることなく、勝山について調べたことを基にして勝山市を活性化したり勝山の安心・安全を守ったりするために自分たちにできることについて考え実行する段階にまで学習を発展させていくことが課題である。

